ONKYO®

デジタルワイヤレスオーディオシステム

UWL-N7X

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に裏表紙に記載の保証書とともに大切に保管してください。

主な特長

■ **2.4GHz周波数の電波でデジタル無線伝送**
赤外線方式と違い、放射赤外光にも影響を受けず快適に楽しめます。

■ **パソコンのUSBポートにトランスミッターを差し込むだけの簡単スタート**
トランスミッターは、標準のUSBオーディオドライバで動作しますので、面倒な設定もなく簡単に使うことができます。

■ **非圧縮伝送で高品位な音楽再生**
CDと同等のクオリティでクリアな音を楽しめます。

■ **直線距離約30m、360度の到達性能**
(ご使用の環境によって異なります。鉄筋コンクリート製の壁や金属性ドアなどには電波が遮られる場合があります。)

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法や仕様は同じです。

付属品の形状は、改良のため予告なく変更する場合があります。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると､人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると､人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⦸ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 心臓ペースメーカーを装着されている場合は、本機を使用しない

●電波によりペースメーカーの動作に影響を与える原因となりますので、使用しないでください。

■ 病院などの医療機関内、医療用機器の近くや、飛行機の中では本機を使用しない

●電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となりますので、使用しないでください。

■ 本機を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合、本機の使用を中止する

●電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となります。

■ 故障したままの使用はしない

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに使用を中止し、ACアダプターを抜き、パソコンのUSBポートから本機を抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対にカバーは、はずさない、改造しない

分解禁止

●本機のカバーは絶対にはずさないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

●風呂場では使用しないでください。 火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐにACアダプターを抜き、パソコンのUSBポートから本機を抜いて販売店にご連絡ください。

⚠警告

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。
- 本機を、押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

●万一、誤って本機を落とした場合や、破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。ACアダプターを抜き、パソコンのUSBポートから本機を抜いて必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

●雷が鳴りだしたら、本機には触れないでください。感電の原因となります。

■ 付属のACアダプター以外のACアダプターを使用しない

●火災・故障やけがの原因となります。

■ ACアダプターを100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●交流100ボルト以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ ACアダプターを傷つけたり、加工しない

●ACアダプターのコードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●ACアダプターのコードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●ACアダプターのコードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 高温注意

●本機の使用直後は高温になっています。不用意に触れるとやけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●電源を入れる前には接続機器の音量（ボリューム）を最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●本機に乗ったり、踏んだりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。
●本機前面のLED表示を凝視しないでください。目を痛める場合があります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器と接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ ACアダプターの注意

●ACアダプターのコードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手でACアダプターのプラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●ACアダプターのプラグを抜くときは、ACアダプターのコードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●ACアダプターのコードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

ACアダプターをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプターのプラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ずACアダプターのプラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■ 点検について

●お手入れの際は、安全のためACアダプターを抜き、パソコンのUSBポートから本機を抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

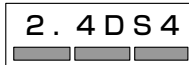
●ACアダプターのプラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

電波について

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
  日本国内のみで使用してください。各国の電波法に抵触する可能性があります。
  また、本機は、電気通信事業法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
  - 分解/改造すること
  - 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

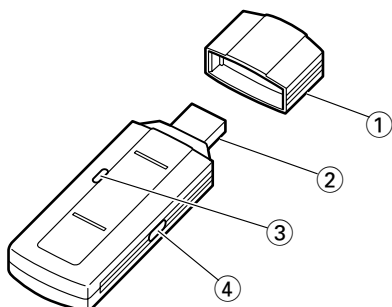
2.4DS4

2.4：2.4GHz帯を使用する無線機器です。
DS：DS-SS変調方式を表します。
4：与干渉距離は40mです。

- 本機は電波を使用しているため、第3者が故意または偶然に傍受することが考えられます。
  重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 次の場所では本機を使用しないでください。
  ノイズが出たり、音が途切れて通常のご使用ができないことがあります。
  - 2.4GHz用周波数帯域を利用する、無線LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話、Bluetoothなどの機器の近く。
    電波が干渉して音が途切れることがあります。
  - ラジオ、テレビ、ビデオ、BS/CSチューナーなどのアンテナ入力端子を持つAV機器の近く。
    音声や映像にノイズがのることがあります。

本機を使用する周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、免許を要する工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局や免許を要するアマチュア無線局などが運用されています。
他の機器との干渉を防止するために、以下の点に十分ご注意いただきご使用ください。

- 本機を使用する前に、近くで他の無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機から他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合、速やかにご使用の周波数を変更するか、使用を停止してください。混信回避のための処置等については、コールセンター（本書裏表紙に記載）へご相談ください。
- その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、コールセンター（本書裏表紙に記載）へお問い合わせください。

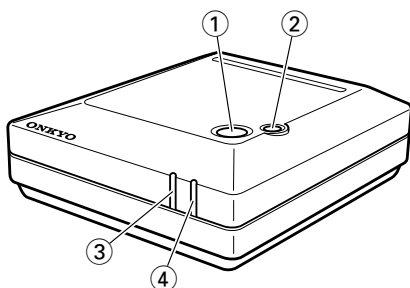
各部の名前と主な働き

■ トランスミッター

① **保護キャップ**

② **USBコネクター**
パソコンのUSBポートと接続します。

③ **送信インジケーター（緑）**
電波を送信しているときに点灯します。

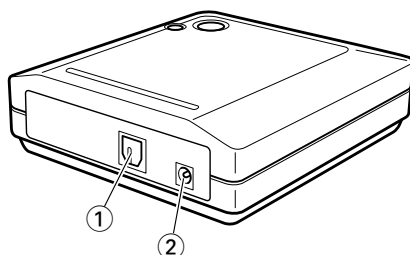
チャンネル　セレクト
④ **CH SELECTボタン**
レシーバーにIDを認識させるときや、周波数を変更するときに使用します。

■ レシーバー（前面、上面）

スタンバイ　オン
① **STANDBY/ONボタン**
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

チャンネル　セレクト
② **CH SELECTボタン**
チャンネルをスキャンするときや、トランスミッターのIDを認識させるときに使用します。

スタンバイ
③ **STANDBYインジケーター**
スタンバイ時は赤く点灯します。ID認識中は赤く点滅します。

シンクロ
④ **SYNCインジケーター**
トランスミッターとの接続を確認すると、緑色に点灯します。トランスミッターの電波をサーチしているときは、緑色で点滅します。

■ レシーバー（後面）

デジタル　アウト　オプティカル
① **DIGITAL OUT（OPTICAL）端子**
付属の光デジタルケーブルを使って、アンプなどの光デジタル音声入力端子と接続します。
- 本製品にMDレコーダーなどの録音機器を接続してもデジタル入力録音はできません。

イン　イン
② **DC IN端子（DC IN 5V）**
付属のACアダプターを使って接続します。

動作環境

対応機種
USB規格Rev.1.1に準拠したUSBポート標準装備のPC/AT互換機（Intel®製USBホストコントローラー推奨）
本機は多くの電力を消費します。トランスミッターは直接パソコンのUSBポートに接続してください。

OS
Windows®XP*SP1以降の日本語版、Windows®2000*SP4以降
*システム管理者権限（Administrator）でのみ使用可能です。

CPU
Intel® Pentium®III 800MHz以上（Intel®Pentium®4 1.4GHz以上推奨）

メモリ
128MB以上（256MB以上推奨）

Windows®について
Windows®日本語版が現在の状態で正しく起動できることを確認してください。

- Windowsの正式名称はMicrosoft Windows Operating Systemです。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国および他の国における登録商標または商標です。
- Intel、PentiumはIntel Corporationの登録商標です。

必要な動作環境を満たすパソコンであっても、パソコンシリーズ固有の設計仕様やお客様の使用環境の違いにより、本機の動作が正常に行われない機種があります。本機の制限事項や動作確認情報についての詳細は、弊社ホームページ(http://www.jp.onkyo.com/)にてご確認ください。

本機をお使いいただくにあたって

本機をお使いいただくにあたり、下記注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。
- 本書は、特に断りのない限り、Windows XPの操作をもとに書かれています。
- 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、Windowsの基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
- 本機を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本機の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。

UWL-N7X(09-E)(SN29344311) 10 06.4.28, 3:38 PM
ブラック

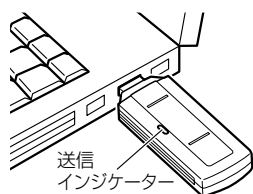
接続をする

パソコンとトランスミッター（UTX-1）を接続する

1. パソコンの電源を入れる

パソコンが起動していることを確認してください。

2. トランスミッターをパソコンのUSBポートに接続する

トランスミッターを抜き差しするときは、レシーバー（RX-N7X）のACアダプターを抜くか、接続しているスピーカーやアンプの音量を下げてから行ってください。

・イラストは一例です。
USBの端子の位置や個数は
パソコンによって異なります。

トランスミッターのキャップをとり、パソコンのUSBポートに接続する
USBポートには正しい方向で接続してください。
自動で認識され、トランスミッターの送信インジケーターが緑色に点灯します。

ご注意

- USBの延長ケーブルなどを使用するときや、デスクトップパソコンの背面にあるUSBポートと接続するときは、電波の状況が悪くなり、音途切れなどが発生することがあります。
- USBハブにトランスミッターを接続するときは、必ずUSBハブにACアダプターを接続してください。

本機を初めてパソコンに接続すると、Windowsが自動的に新しいハードウェアを認識し、必要なドライバソフトウェアのインストールが始まります。しばらくお待ちください。

！ヒント

- パソコンのUSBポートに直接接続するようにしてください。
- トランスミッターはパソコンの再生を停止した状態であれば、パソコンの電源ON/OFFに関係なく抜き差しすることができます。
- パソコンにUSBポートが2つ以上あるときは、どのポートに接続してもかまいません。ただし、パソコンによっては次に別のUSBポートに接続したときに、再度認識が始まる場合があります。
- 音楽を再生してからトランスミッターを接続しても正しく聞くことができません。必ずトランスミッターを接続してから音楽を再生してください。

もしもインストールが進まない場合は、トランスミッターを抜き、15秒ほど待って再度トランスミッターを接続してください。それでもインストールが始まらない場合は、次の操作をしてください。
①「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
②「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
③ コントロールパネルの「システム」をクリックします。
④「システムのプロパティ」ウィンドウで、「ハードウェア」タブを選択します。
⑤「ハードウェアの追加ウィザード」ボタンをクリックします。

以上の手順でインストールが始まりますので、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。
お客様のパソコンの環境によっては、トランスミッターをパソコンの他の端子に差し換えると、ドライバの再インストールを要求されることがあります。手順に従ってもう一度ドライバをインストールしてください。

レシーバー（RX-N7X）をFR-N7Xに接続する

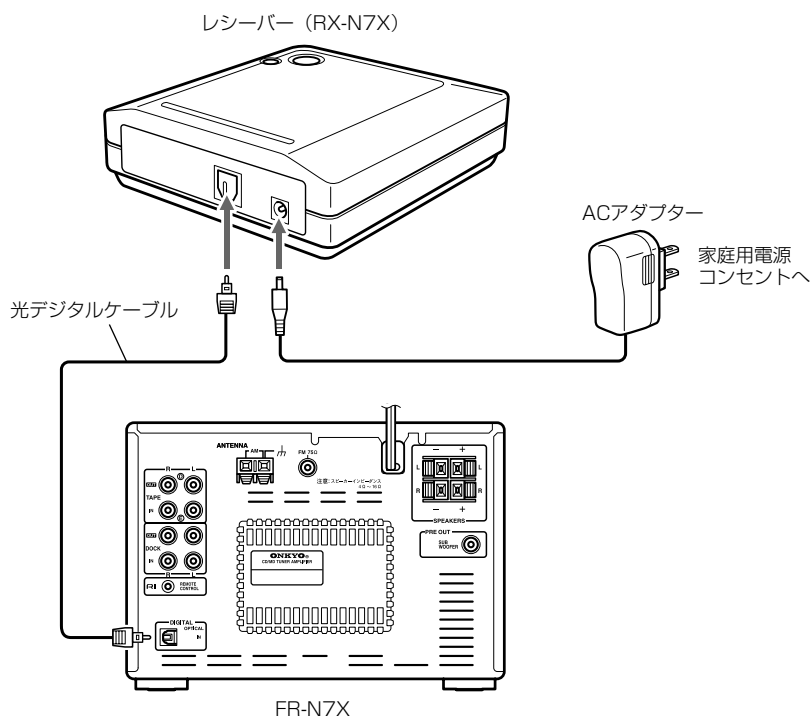
接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- ACアダプターは全ての接続が終わるまでつながないでください。

光デジタル出力端子について

本機の光デジタル端子はシャッタータイプですので、フタをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

- 付属の光デジタルケーブルの先端には、保護キャップが付いています。キャップを外してから接続してください。
- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、フタが破損する場合があります。

ID認識のしかた

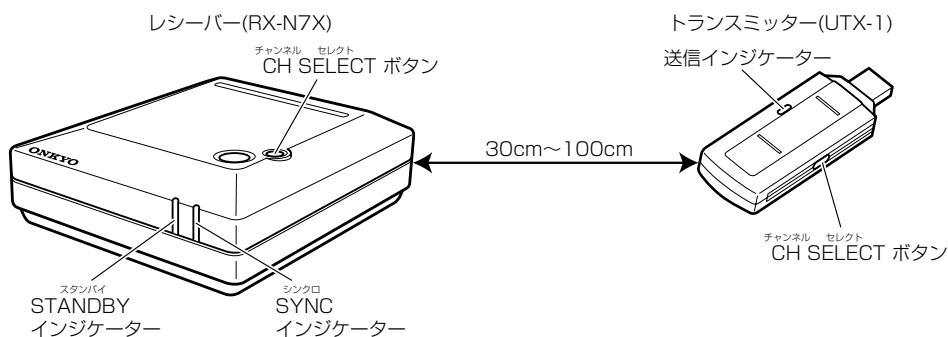
お買い上げ時は、トランスミッターのIDをレシーバーに認識させてあります。複数のワイヤレスオーディオシステムを使用するときなどは、以下の方法でIDを認識させてからご使用ください。

1. パソコンが起動している状態でトランスミッターをパソコンに接続し、レシーバーの電源を入れる

2. トランスミッターとレシーバーを30cm～100cm程度に近づける

3. レシーバーのCH SELECT（チャンネル セレクト）ボタンを3秒以上押しながら、トランスミッターのCH SELECTボタンを6秒以上押す

トランスミッターの送信インジケーターとレシーバーのSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点滅します。
トランスミッターから送られるIDをレシーバーが認識することで完了します。

● 完了するとレシーバーのSYNC（シンクロ）インジケーターが点灯します。

パソコンで再生した音楽ファイルを聞く

ボリュームコントロールの確認

1. ボリュームコントロールを開く

お使いのパソコン環境によっては、ミキサーコントロール等の名前の場合もあります。

＜Windows XPの場合＞

①「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
②「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
③ コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
④「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」のウィンドウで「オーディオ」タブを選択します。
⑤「音の再生」の「音量」ボタンを押します。

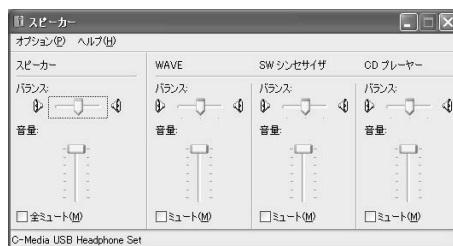
＜Windows 2000の場合＞

①「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「サウンドとマルチメディア」を開きます。
②「オーディオ」タブを選択します。
③「音の再生」の「音量」ボタンを押します。

2. 調整する

① バランス
左右の出力バランスを変更します。

② 音量スライダー
再生ボリュームをお好みの位置にできますが、より良い音質でお楽しみいただくために、音量スライダーはMAXとし、音量調整はレシーバーに接続されたアンプなどで行うことをおすすめします。

③ ミュート
再生の音声を消すときは、チェックボックスにチェックをつけます。

！ヒント

- ボリュームコントロールは、「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」でも開くことができます。
- Windows 2000の場合は、「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」でも開くことができます。

パソコンに保存してある音楽ファイルを聞く

パソコンに保存してある音楽ファイルなどを聞くことができます。パソコンのDVD/CD-ROMドライブでCDやDVDを再生することができます。その場合は17ページの設定を行ってください。

1. トランスミッターとパソコンが正しく接続されているか確認する

（11ページをご覧ください。）

！ヒント

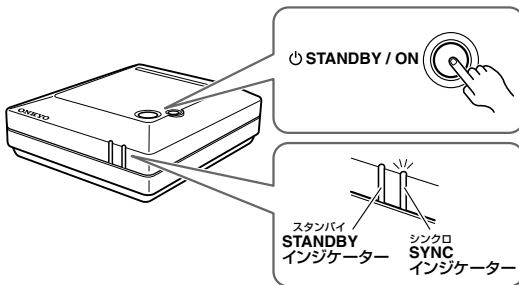
パソコンに接続している状態でも、しばらく再生を行わないとトランスミッターは、自動的に送信停止状態になります。（送信インジケーターが消灯しています。）その場合、この状態から音楽を再生すると、曲の頭がかけることがありますので、一度音声を再生してから送信インジケーターを点灯させてください。

2. レシーバーにFR-N7X（CD/MDチューナーアンプ）を接続する

（12ページをご覧ください。）

ご注意

- トランスミッター（UTX-1）に入力された音声は、レシーバー（RX-N7X）のOUTPUT（アウトプット）端子から出力されます。サウンド機能を実装済みで、直接パソコン本体にスピーカーが接続されているような場合、トランスミッターに入力された音声をそのスピーカーでモニターすることはできません。
- レシーバー側の接続をするときは、接続する機器の電源を切ってから行ってください。

3. レシーバーの電源を入れる

STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯しているときは、STANDBY（スタンバイ）/ON（オン）ボタンを押して電源をオンにしてください。
トランスミッターとの無線接続が完了すると、SYNC（シンクロ）インジケーターが点灯します。

4. Windowsに付属のMedia（メディア） Player（プレーヤー）などで再生する

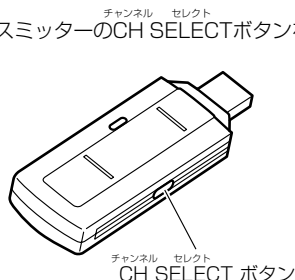
5. 使い終わったら…

① レシーバーのSTANDBY/ONボタンを押してください。

② パソコンで音声を再生していないことを確認して、トランスミッターをパソコンから抜いてください。

！ヒント　**雑音や音途切れがあるときは…**

使用中に雑音が入ったり音が途切れるときは、使用したままトランスミッターのCH SELECTボタンをくり返し押してください。
本機は13段階（2.4GHz～2.4835GHz）に周波数を切り換えることができます。これにより改善される場合があります。また、トランスミッターを再度抜き差しするか、CH SELECTボタンを3～5秒押すと周波数自動調節機能が働き、雑音の少ない周波数を設定します。

CH SELECT ボタン

■ Windows Media Playerを使用する場合

MP3、WAVE、WMAなどを再生することができます。

① **Windows XPの場合：**
「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「Windows Media Player」と選択して、Windows Media Playerの画面を表示させます。

Windows 2000の場合：
「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「Windows Media Player」と選択して、Windows Media Playerの画面を表示させます。CDを聞く場合は「CD player」を選択し、再生したいトラックをクリックします。

音量スライダー

②「ファイル」メニューから［開く］を選択して、［ファイルを開く］画面を表示させます。

③「ファイルの場所」で再生したい音楽ファイルを選択します。

④ 音量スライダーで音量を調整します。

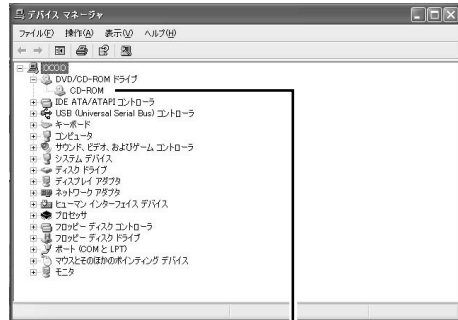
操作に関する詳細は、Windows付属のドキュメントまたはヘルプをご覧ください。

音楽CDを再生する場合の設定

パソコンのDVD/CD-ROMドライブでCDを再生する場合は、下記の設定をしてください。

1. 「マルチメディアのプロパティ」画面（もしくは「DVD/CD-ROMドライブのプロパティ画面」）を開く

<Windows XPの場合>

①「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
②「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
③ コントロールパネルの「システム」をクリックします。
④「システムのプロパティ」のウィンドウで「ハードウェア」タブを選択します。
⑤「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。
⑥ 音楽CDを再生するCD-ROMドライブをダブルクリックし、「プロパティ」を選択します。

ダブルクリック（または右クリックしてプロパティを選択）

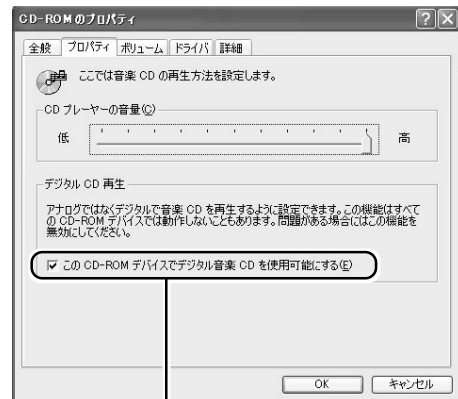
<Windows 2000の場合>

①「スタート」→ 「設定」→「コントロールパネル」→「システム」を開きます。
②「ハードウェア」タブを選択します。
③「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。
④ 音楽CDを再生するCD-ROMドライブをダブルクリックし、「プロパティ」を選択します。

2. 「このCD-ROMデバイスで…」にチェックマークを入れる

3. ［OK］ボタンをクリックする

チェックマークを入れる

ご注意

お使いのCD-ROMドライブがデジタル出力に対応していないときは、「このCD-ROMデバイスで…」にチェックマークを入れられません。また、「このCD-ROMデバイスで…」にチェックマークを入れられないときは、トランスミッターの接続をもう一度確認してください。

困ったときは

まず、下記の内容を確認してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

- **文章の最後にある数字は参照ページです。**

音　声

音が出ない

- レシーバー側に接続している光デジタルケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。また、FR-N7Xとの接続も確認してください。**(12)**
- レシーバーのSTANDBYインジケーターが点灯していませんか？点灯している場合、レシーバーの電源がオフになっています。STANDBY/ONボタンを押してレシーバーの電源を入れてください。**(15)**
- ボリュームコントロールを開き、ミュートのチェックをはずしてください。**(14)**
- 出力レベルが小さくなっています。ボリュームコントロールを開き、ボリュームをすべて最大値に設定してください。**(14)**
- 他の音声出力デバイスになっていないか確認してください。**(21)**
- FR-N7Xとスピーカーが確実に接続されているかどうか確認してください。
- レシーバーのSYNCインジケーターが点滅しているときは、通信に失敗しています。トランスミッターのIDをレシーバーに認識させてください。**(13)**
- 「雑音が多い/音がひずむ」の項も参照してください。

左右の音量バランスがかたよっている

- 再生しているソフトウェアのボリュームコントロール等でバランスを調整してください。

音が良くない/雑音がする

- テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いていると、磁気の影響で雑音が入ることがあります。テレビなどから離して置いてください。

パソコンがトランスミッターを認識しない

- トランスミッターをパソコンに確実に接続してください。**(11)**
- ハブに問題がある場合があります。パソコンのUSBポートに直接接続することをおすすめしますが、ハブを経由して接続する場合は、ハブが動作しているかどうかをハブの取扱説明書にしたがって確認してください。
- トランスミッターを抜き、15秒ほど待ってもう一度接続してみてください。パソコンのシステムが不安定になっている場合は、再起動を試してください。

パソコン内蔵のスピーカーから音が出ない

- USBオーディオデバイスが優先されているため、内蔵スピーカーから音声が出力されません。内蔵スピーカーから一時的に音声を出力させるためには、パソコンからトランスミッターを抜いてください。内蔵スピーカーのご使用後は、トランスミッターを再度接続してください。

雑音が多い/音がひずむ

- 設置状態によっては音途切れがする場合があります。
  トランスミッターの設置場所を変えてみてください。パソコン本体が動かせない場合は、市販の延長ケーブルなどを利用してトランスミッターの位置を変えることで改善される場合があります。
- トランスミッターのCH SELECTボタンを押して周波数を調節してください。**(16)**
- 近くにラジオやBS/CSアンテナがある場合、混信することがあります。
- 無線LANや電子レンジ等、2.4GHzの周波数帯域を使用する機器の近くでは音が途切れることがあります。そのようなときは、トランスミッターのCH SELECTボタンを押して周波数を切り換えてみてください。改善される場合があります。**(16)**
- トランスミッターとレシーバーの間に障害物があると音が途切れることがあります。

CD-ROMドライブからの音声が出力されない

- CD-ROMドライブがデジタル音声出力に対応していない場合、USB経由ではCD-ROMドライブから出力された音声は出力されません。

ゲームのBGMが出力されない

- BGMにCD出力が使用されている場合、前ページの「CD-ROMドライブからの音声が出力されない」の項目を参照してください。

音が途切れる

- 音声再生中にCPUに負担のかかる作業を行っている場合は、控えてください。
- 音声の再生中に他のUSB機器を抜き差しすると、音声が途切れることがあります。
- CPUが推奨スペック（10ページ）を満たしていない場合は、期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPUが推奨スペックを満たしている場合でも、CPUが非常に高負荷の状態である場合には音が途切れることがあります。この場合は、他のアプリケーションをすべて終了させてください。
- ノートパソコンなどでは省電力の設定を解除することで改善される場合があります。

録　音

MDにデジタル録音できない

- 本機は著作権上、録音できない仕様となっています。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、ACアダプターを抜くか、パソコンのUSBポートから本機を抜き、約5秒後にあらためて差し込んでください。

■ ドライバのインストールを確認する

1. システムのプロパティからデバイスマネージャを開く

<Windows XPの場合>

①「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
②「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
③ コントロールパネルの「システム」をクリックします。
④「システムのプロパティ」ウィンドウで、「ハードウェア」タブを選択します。
⑤「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

<Windows 2000の場合>

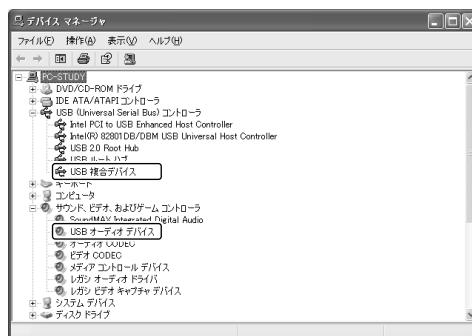
①「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」を開きます。
②「ハードウェア」タブを選択します。
③「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

2. 以下のデバイス名があることを確認する

「USB（ユニバーサルシリアルバス）コントローラ」の「＋」をクリックします。

- USB複合デバイス

「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の「＋」をクリックします。

- ＵＳＢオーディオデバイス（ＵＳＢ Audio Device）

＊画面は、パソコンの設定や状況によって順番等が異なる場合があります。

ご注意

お使いのパソコンの仕様やオペレーティングシステムによっては、実際に表示されるデバイスリストが上記の画面と多少異なります。
「USBコントローラ」の下に「不明なデバイス」と表示されている場合は、トランスミッターを外し、もう一度接続し直してチェックしてください。それでも認識されない場合は、リストから「不明なデバイス」を削除し、トランスミッターを取り外し、もう一度接続します。それでも認識されない場合は、パソコンが不安定になっている場合がありますので、パソコンを再起動し、トランスミッターを接続し直してから「不明なデバイス」をリストから削除します。それでもまだ動作しない場合は、パソコン側に問題がある可能性がありますので、パソコンの販売店にご相談ください。

UWL-N7X(09-E)(SN29344311) 20 06.4.28, 3:39 PM
ブラック

■ オーディオデバイスを確認する

1. オーディオデバイスを確認するパネルを開く

<Windows XPの場合>

①「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。

②「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。

③ コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイス」をクリックして、「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウを開きます。

<Windows 2000の場合>

①「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「サウンドとマルチメディア」を開きます。

2. 「オーディオ」タブを選択する

3. 「音の再生」の「既定のデバイス」が「C-Media USB Headphone Set」になっていることを確認する 異なる場合は、変更する

OSによって、「音の再生」は「再生」、「既定のデバイス」は「優先するデバイス」、「C-Media USB Headphone Set」は「USBオーディオデバイス」となっています。

4. 「OK」ボタンを押す

C-Media USB Headphone Set

確認したら「OK」を押して閉じる

ご注意

トランスミッターを接続してすぐに「オーディオ」ウィンドウを開くと、既定のデバイスが「C-Media USB Headphone Set」にならないことがあります。接続後はしばらく時間をおいてからウィンドウを開き、確認してください。トランスミッターを接続し直すときは、「オーディオ」ウィンドウを閉じてから行ってください。

主な仕様

■ デジタルワイヤレストランスミッター（UTX-1）

接続方式：USB（Universal Serial Bus 1.1）
伝送帯域：2.4GHz 帯（2400MHz〜2483.5MHz）
電源：USB供給
消費電流：360mA
外形寸法（幅×高さ×奥行）：86.5×13.0×28.5mm
質量：20g

■ デジタルワイヤレスレシーバー（RX-N7X）

電源：DC 5V（付属のACアダプター使用）
質量：140g
外形寸法（幅×高さ×奥行）：91.0×29.5×102.0mm
消費電力：1.3W
待機時電力：0.8W
出力端子：光デジタル×1

※仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 X-N7UWX または UWL-N7X
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　（　　）

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　9：30〜17：30
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）

G0605-1

SN 29344311